

日本史の旅 3

古墳の謎

田辺昭三



NON BOOK



「ノン・ブック」とは



既成の価値に対する不安と疑い——これが現代の特色です。

まさに「否定」の時代と申せましょう。

このとき私たちの「ノン・ブック」がスタートします。

これまでの考え方に、待てよ、と小首をかしげ、人間の明日をささえる新しい喜びを見いだそうとするシリーズです。

読者とともに「真に人間的な価値とはなんだろうか」を問いかけ、その答えを模索していきます。そのためにあらゆる従来の枠をとりはずして、自由な創作性で一冊一冊に取り組んでいくつもりです。

どんなことでも、あなたのご意見を歓迎します。

昭和四十五年十二月十五日

NON・BOOK編集部

NON・BOOK-38

日本史の旅3——古墳の謎

昭和47年11月10日

初版発行

昭和50年11月30日

13版発行

著者

田 辺 昭 三

発行者

黒 崎 勇

発行所

しょう せん しゃ
祥 伝 社

東京都千代田区神田神保町3-6-5

九段尚学ビル 7101

☎ 03 (265) 2081(代表)

発売

小 学 館

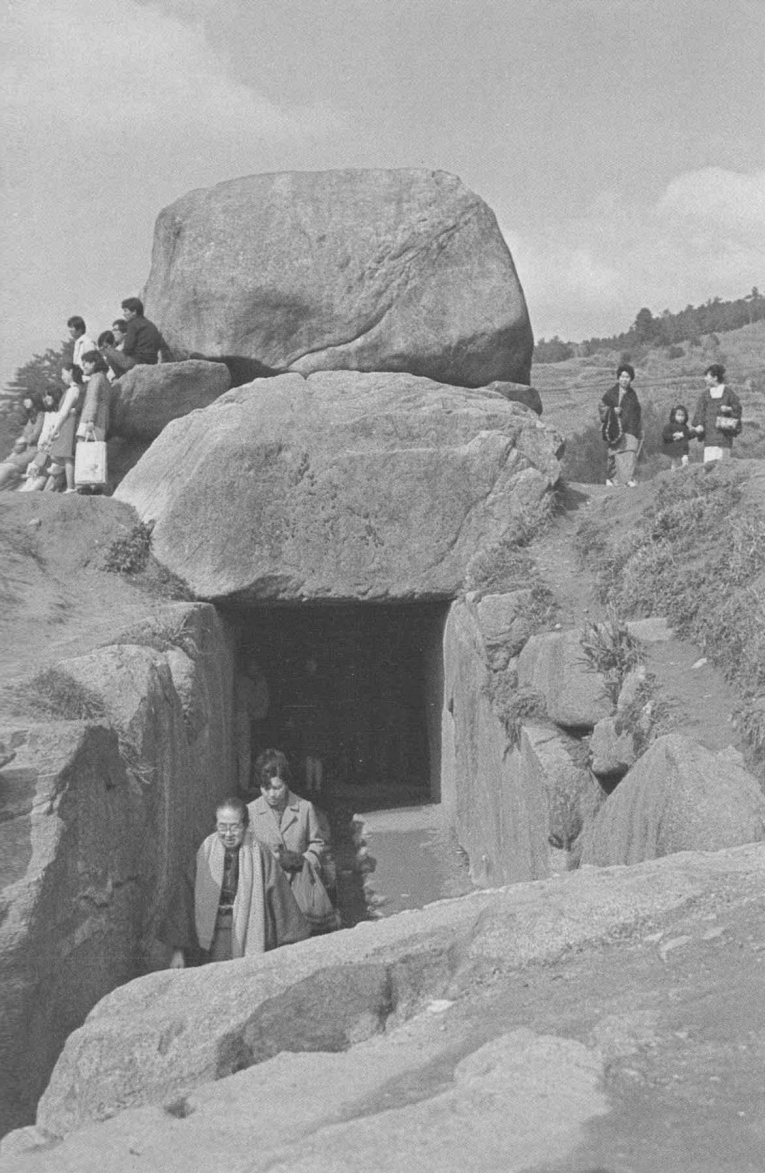
印刷 堀内印刷

製本 関川製本

万一、落丁乱丁がありました節は、お取りかえします。

Printed in Japan

© Shozō Tanabe



石舞谷 古墳の盛り土がなくなって石組みばかりが露出し、ここでキツネが女に化けて踊ったという伝説からこの名がある。小林秀雄が「芸術の始源とでもいうべきものに会っているような気がした」といったように古代人のおおらかさを感じさせる。(7章参照)



は仁徳陵(上)履仲陵(下)などの百舌鳥古墳群がある。
莫である。では、この巨大な前方後円墳の本当の埋
いまだ解き明かされてはいない。(2章参照)



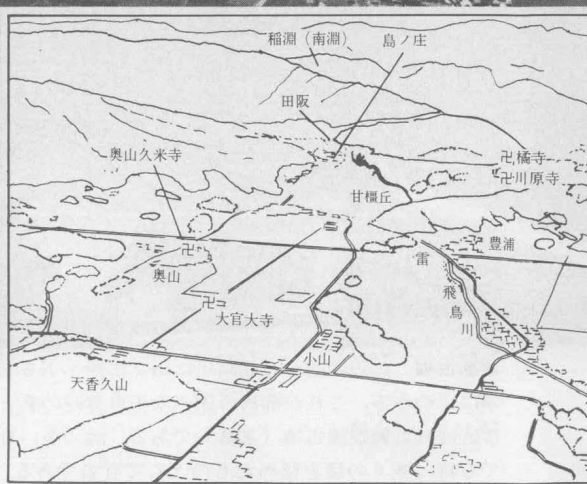
仁徳陵古墳と履仲陵古墳 大阪湾に面した堺市に-
とりわけ仁徳陵古墳は世界の帝王陵のうち最大の！
葬者は誰なのだろうか？ 古代史の秘められた謎！



山辺の道 やまのへ 穴師の愛宕あなしのあたごから見る山辺の道は飛鳥あすかから平城ならへとつづく古代の道である。正面の小高い丘は単弥呼ひとみよの墓ともいわれる箸墓はしほかであり、後方の山は大和三山やまとさんざんのひとつ耳成山みみなりやまである。大和朝廷の文化と信仰はこの山辺の道にはじまる。(1章参照)



箸墓古墳 山辺の道から巻向川に沿って西へ下ると巨大な前方後円墳にぶつかる。これが邪馬台国の女王卑弥呼の墓ともいわれている倭迹迹日百襲姫陵古墳（箸墓）である。謎の多い日本古代史のなかでも特に多くの謎を秘めたものとして有名である。

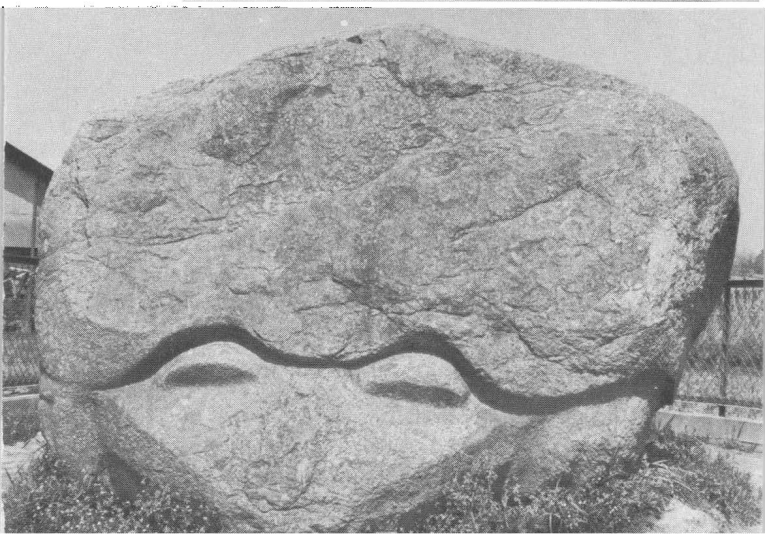
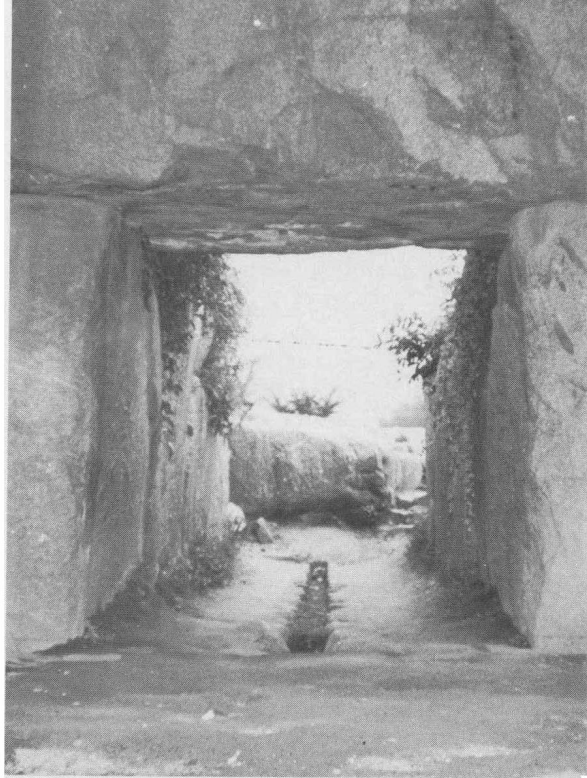




飛鳥の里 万葉集に歌われた飛鳥川の上流に栄華を誇った蘇我一族の根拠地島^しノ^の庄^はがあり、手前に大^お和^わ三^{さん}山^{さん}のひとつ天^{てん}香^{かう}久^く山^{さん}がある。飛鳥地方はいわば日本の政治と文化の源流である。

→ 石舞台古墳の石室内部 75トンもある巨石が積み重ねられた石室。床には幅30センチの排水溝がめぐらされ、水は外濠に流れる。(7章参照)

↓ 亀石 花崗岩の自然石に彫刻した長さ4メートルの巨石。中国、朝鮮の墳墓に置かれた亀趺の系列にならぶものとも考えられる。(8章参照)



日本史の旅 3

古貨の謎

田辺昭三

祥伝社

NI

N

BOOK

眞

まえがき

高松塚で極彩色の壁画が発見されて以来、古墳に対する関心が俄に高まっているが、古墳とは何かということについて、一応の知識をもっている人は意外にすくない。

古墳の正体をつかむには、整然と項目をたてた入門書を読むのより一番よい。しかし、考古学の本は、それが入門書であっても、しばしば研究者の間でしか通用しない符牒のような用語を多用しているものが多く、そのために、素材そのものが謎のかたまりのような興味津津の内容をもっているにもかかわらず、何となくとっつきにくい。

そこで、私はこの本を、なぜか、どうして、という単純な疑問からスタートして、謎につつまれた古墳の世界へ自然に誘われていくような、ある程度気楽な読みものとすることに気を配った。

しかし、未知の世界へわけ入っていくには、多少の予備知識も必要である。

そのことを考慮して、できるかぎり各所に解説的な部分を加えたが、それが話の進行のさまたげになって、興味をそぐような結果になったとしたら、それは私の努力不足である。

ただ、私はこの本の中で、古墳について何もかも語りつくすつもりはなかったし、特別それに神経を使うこともなかった。したがって、かなりポピュラーなことがらでも、話の中へそれを十分盛りこめなかったものが幾つかある。

だから、この本を読めば、古墳のすべてがわかると思っていたいては困る。古墳の世界のほんの門口^{かどぐち}まで道案内するだけなのだから。

この、いわば八方破れの古墳入門の書が、私の勝手な引きまわしに終わることなく、一人でも多くの人を正しく古墳の世界へ道案内してくれることを、ひそかに願うばかりである。

昭和四十七年初秋

田 辺 昭 三
^た ^{なべ} ^{しょう} ^{ぞう}

目次

まえがき	11
------	----

序 私の古墳入門	18
----------	----

1 卑弥呼は本当に箸墓に葬られたか	25
-------------------	----

—— 神話と歴史の接点、箸墓古墳の謎

〈史蹟〉箸墓 備前車塚 柳本・大和古墳群 〈人物〉卑弥呼 倭迹迹日百襲姫 大物主神 箸で陰を突いて死んだ百襲姫の伝承	27
卑弥呼の墓とする笠井新也の説	30
特殊器台が箸墓の時代を決める	42

2

世界最大の帝王陵の被葬者は誰か

仁徳陵古墳、築造年代の謎

〈史蹟〉仁徳陵 応神陵 履仲陵

〈人物〉仁徳天皇 応神天皇 倭の五王

まったくの左右対称に設計された仁徳陵………56
記・紀の記述をうのみににはできない………64
被葬者は「倭の五王」のうちのひとり？………76

3

なぜ架空の天皇の陵墓が実在するのか

幕末時代のまま、天皇陵比定の謎

〈史蹟〉今城塚 継体陵 崇神陵 垂仁陵

〈人物〉継体天皇 田道間守 神功皇后

忽然と姿をあらわした田道間守の墓………84
古墳の上に城をかまえた武将・三好長慶………88
神功皇后陵とまちがえられた成務陵古墳………91

4

なぜ古墳の被葬者は忘れ去られるのか

——平城京造営で消えた古墳の謎

〈史蹟〉平城京跡 平城陵 日葉酢媛陵

〈人物〉平城天皇 日葉酢媛 磐之媛

全国には一〇万の古墳がある…………… 98

前方後円墳がいつの間にか円墳に…………… 104

前方の丘は葬祭の場であった？…………… 109

5

墓盗人の記録が教える古墳の本体

——ひとつあばけば大金持ちという墓盗人の話

〈史蹟〉天武・持統合葬陵 鬼の廻・雪隠

〈人物〉天武天皇 持統天皇 成務天皇

墓荒らしは懲役一三年の実刑…………… 118

二度も地上に出た成務陵の副葬品…………… 128

墓盗人の手をのがれた古墳は皆無？…………… 134